

三遠南信地域の港 三河港の現状 (1)

「三遠南信地域の港」とも言える三河港について、港湾管理者である愛知県三河港務所から情報提供をいただいたので、紹介する。海なし県の当地域において「港」は馴染の薄いものであるので、基本的なところから始めることとしたい。

1. 三河港とは

三河港は、愛知県の三河湾に位置する西浦（蒲郡市）、蒲郡（同）、豊橋（豊橋市）、田原（田原市）の4港が、昭和37年5月に統合され、「三河港」となったものである。

昭和39年4月には重要港湾に指定されている。

重要港湾 国際戦略港湾、国際拠点港湾以外の港湾で、海上輸送網の拠点となる港湾その他の国の利害に重要な関係を有する港湾として政令で定めるもの

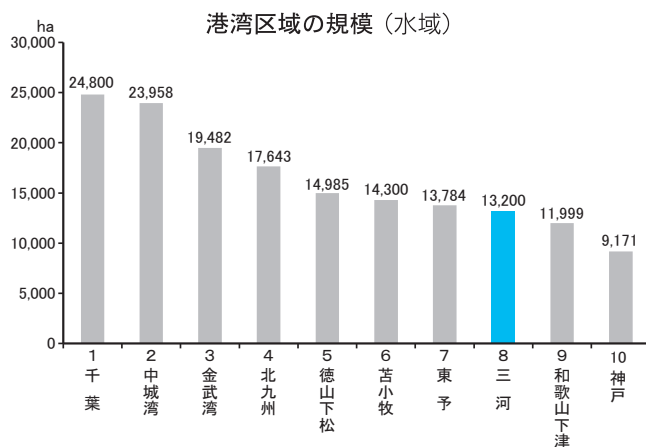
国際戦略港湾 国際海上コンテナ運送に係る国際海上貨物輸送網の拠点となり、国際海上貨物輸送網と国内貨物輸送網とを結節する機能が高い港湾で、その国際競争力の強化を重点的に図ることが必要な港湾として政令で定めるもの

国際拠点港湾 国際戦略港湾以外の港湾で、国際海上貨物輸送網の拠点となる港湾として政令で定めるもの

(以上 港湾法第2条)

港湾区域（水域）は、田原地区の白磯と蒲郡市西浦の御前崎を結ぶ線で区切られる132平方キロメートルで、全国で第8位の規模となる。

これに対し、港湾地区（陸域）は、三河港は5.5平方キロメートルで、第28位となっている。



(国土交通省 HP 2020年4月1日現在)

三河港概要図



(愛知県三河港務所 HP)

2. 三河港の全国での位置は

次に、国土交通省公表データにより、三河港の全国の港湾での位置を確認しておく。

(1) 入港船舶数

2018年の入港船舶数は、13,939隻で全国第66位の規模。ランキングを見ると、内航運輸が発達している瀬戸内地域や西日本の港湾が上位を占めている。

これを、外航・内航別にすると、三河港は外航は1,152隻で22位であるが、内航は12,787隻で74位となっている。当港が外航船の出入りの多い港であることが判る。

(2) 港湾取扱貨物量

取扱貨物量（2018年、輸出・輸入・内貿・内航フェリー計）は、三河港は2,353万トンで第33位となっている。

(3) 貿易額

貨物取扱量に対し、貿易額（2019年、輸出・輸入計）は、三河港は33,691億円と全国第9位と上位に入ってくる。うち、輸出額は25,424億円で第7位であるが、輸入額は8,267億円で第18位となる。

(4) コンテナ取扱量

国が戦略的課題として取り組んでいるコンテナ輸送については、2019年速報値のコンテナ取扱貨物量（外貿・内貿計）は、三河港は35,778 TEU（ISO規格コンテナの20フィートコンテナに換算したコンテナ数量）で第50位となっている。

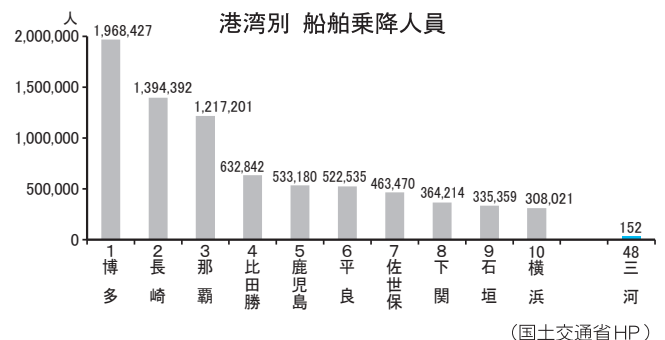
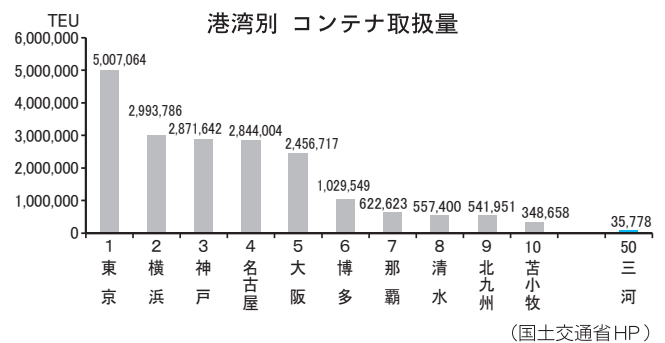
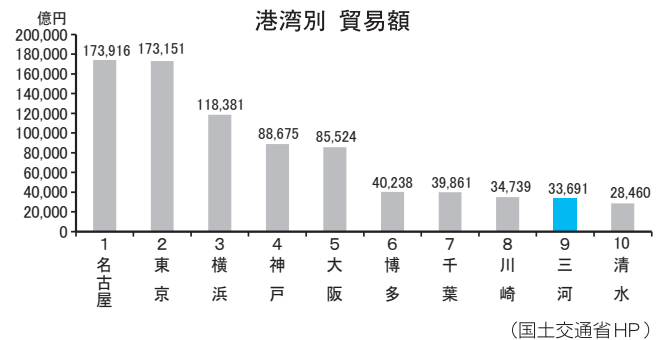
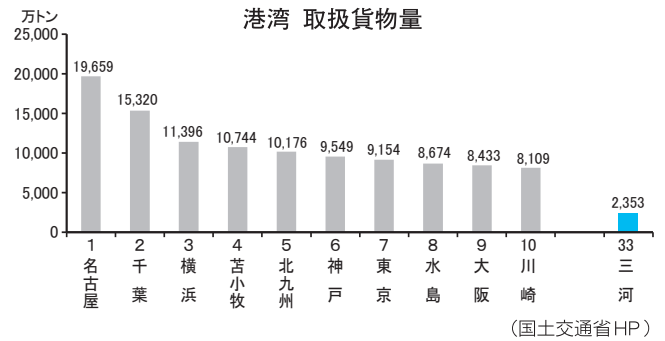
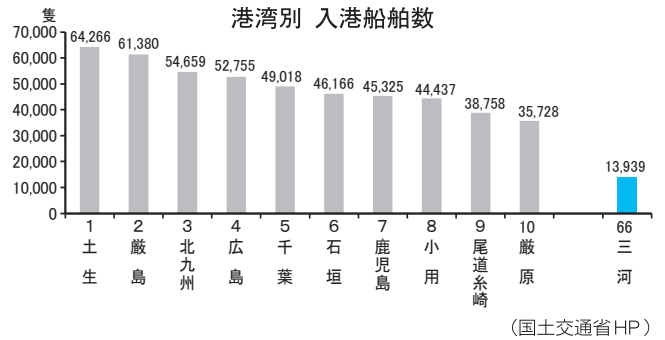
(5) 船舶乗降人員

2018年の船舶乗降人員（乗込・上陸計）は、三河港は152人で第48位。内訳は乗込152人で、上陸はゼロである。

3. 三河港の特徴

国交省データで見る三河港は、入港船舶数や取扱貨物量に比して貿易額が全国有数の地位を占めている、即ち「稼ぐ力が大きい港湾」と言える。反面、コンテナ輸送対応に余地を残している。三河港には人の動きが少ない、と言えそうである。

以後、三河港務所提供のデータにより見ていくこととする。



(飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平)

三遠南信地域の港 三河港の現状 (2)

1. 三河港の港湾管理者と港湾計画

三河港の港湾管理者は港湾法33条に基づいて愛知県(三河港務所)となる。港湾管理者は「港湾の開発、利用および保全、港湾に隣接する地域の保全」(港湾法3条3)に関する計画を定める。港湾計画は10年から15年の将来を目標とするもので、三河港では、平成23年に「平成30年代前半を目標年次」(同計画)とする改訂を行っており、来年度に次の改訂年次を迎えるとのことである。計画の柱として、

- 国際的な物流・産業拠点の形成
 - ・自動車流通港湾機能の拡充
 - ・コンテナ貨物を取り扱う多目的国際ターミナル など
- 魅力ある質の高い生活環境空間の創出とみなとまちづくりの推進
 - ・交流拠点やレクリエーション空間の確保
- 環境共生・循環型社会づくりへの貢献
 - ・三河湾の生態系の維持など
- 地域への安全・安心の提供
 - ・大規模地震対策、風水害に対する港湾機能の確保
- 港湾空間のゾーニング
 - ・物流ゾーン、生産ゾーン、緑地・レクリエーションゾーン、環境保全ゾーンの指定が掲げられている。

三河港全貌 (航空写真)



(愛知県三河港務所提供)

2. 三河港の港勢 ～取扱貨物量および品目～

平成23年度改訂港湾計画において、目標年次(平成30年代前半)における計画諸数値は右の通りである。

三河港の取扱貨物量は、平成30年度で内・外貿計で23,535千トン。平成28年度から微増傾向にある。三河港の取扱貨物の特徴は自動車の占める比率が高いことにある。「2018年まで自動車の輸入台数・金額が26年連続日本一」「国内シェアは50%超、台数も増加傾向で、輸出台数も安定的に推移」(同港務所資料)。

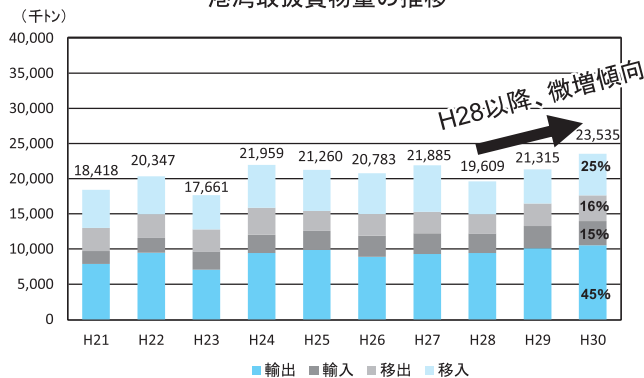
次頁の通り(平成30年)、輸出で完成自動車のシェアは95%、輸入においても完成自動車は64%を占めている。国内メーカーは、トヨタ、スズキ、三菱の生産拠点が周辺にあること、「日本列島の中心という好立地」と「温暖な気候で雪が降らないこと」などから、フォルクスワーゲン、ボルボ、FCA(フィアット・クライスラー・オートモービルズ)、ジャガー・ランドローバー、プジョー・シトロエン、メルセデスベンツなど海外18ブランドの拠点が置かれている。

港湾計画目標数値

取扱貨物量	外 貿 (うち外貿コンテナ)	2,050万トン (40万トン(7万TEU))
	内 貿	1,780万トン
	合 計	3,830万トン
	船舶乗降旅客数等	5万人

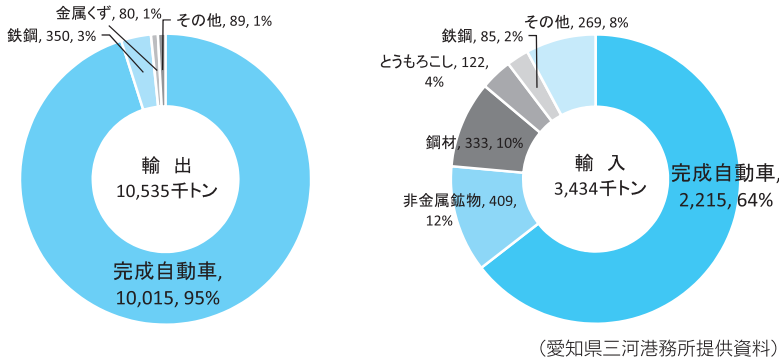
(三河港港湾計画(H23改訂))

港湾取扱貨物量の推移

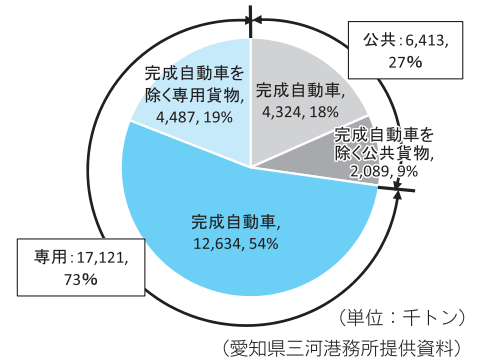


(愛知県三河港務所提供資料)

外貨貨物品目別状況 (H30年)



公共・専用別貨物量・割合 (H30年)

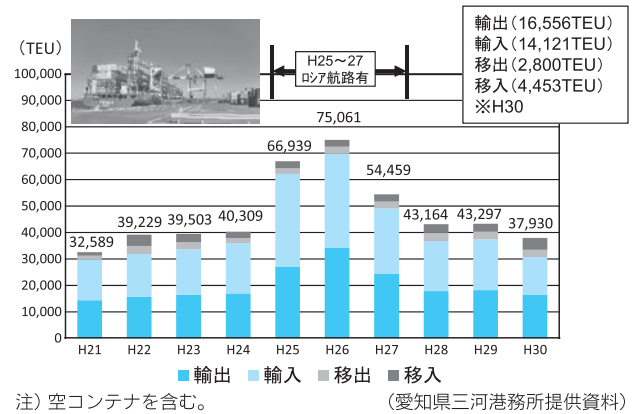


2. コンテナ貨物量は減少傾向

港湾貨物の主力と期待されているコンテナ貨物は、平成26年度の75千 TEU をピークに減少が続いている。その要因として同港務所では、「ロシア航路の廃止、金属機械工業品（輸出入）、木製品（輸入）、製造工業品（輸入）、自動車部品（輸出）等の減少」としている

※ TEU = ISO 規格20フィートコンテナに換算したコンテナ数量単位

コンテナ貨物量の推移

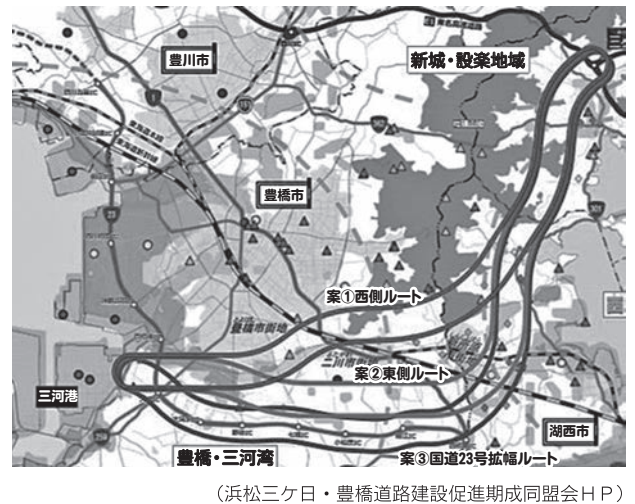


3. 三ヶ日豊橋道路への期待

高速道路を経由して豊橋市中心部へ行く場合、東名高速豊川インターからはやや距離があり、渋滞に遭遇することがある。三河港へのアクセスは「東名高速道路東名音羽蒲郡 IC または同豊川 IC」であり、三河港直背後の国道23号は「慢性的に混雑を呈し、安全性や物流に支障をきたしている」（同資料）との同港務所の認識である。

三河港と東名高速三ヶ日 JCT を起点・終点とする浜松三ヶ日・豊橋道路の構想が立てられ、実現に向けて取り組みが進められてきた。

浜松三ヶ日・豊橋道路建設 ルート案



最近の状況は、本年6月に国土交通省中部地方整備局が社会資本整備審議会道路分科会中部地方小委員会において同道路の3ルート案を公表。同整備局は地域住民や道路利用者を対象としたアンケート調査を11月6日まで実施している（浜松三ヶ日・豊橋道路建設促進期成同盟会HP）。三遠南信道の整備と併せ、当地域から三河港および豊橋地区や静岡県浜名湖西地区との往来が大幅に改善し、当地域の物流面や産業界へのメリットは多大なものになると期待できる。

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平）

三遠南信地域の港 三河港の現状 (3)

～ 飯伊地域や長野県の輸出と港 ～

本誌No.496、497で「三遠南信地域の港」とも言える三河港について紹介してきた。今回は、港を利用する地域の側から、長野県や当地域の輸出を見る。

1. 長野県の輸出处荷額と輸出生産事業所数の推移

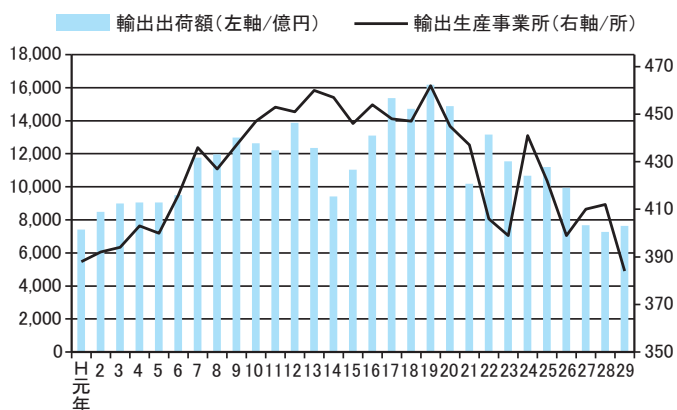
長野県は毎年、「輸出生産実態調査結果報告書」を公表している。

これは、日本標準産業分類による大分類E－製造業を主業とする事業所（国及び公共企業体に属するものを除く）のうち、従業員10人以上を有する3,200事業所で、輸向製品を製造又は加工している事業所を調査の対象としており、各年末日現在の事業所数や従業員数、直接輸額、間接輸額及び輸向加工賃や、それらの合計である輸出处荷額などを集計したものである。

最新の結果である平成29年の同調査によると、平成29年の県全体の輸出处荷額は、7,642億6,747万円で、前年に比べ5.1%増加している。とはいうものの、リーマンショック後の平成21年に比べても少なく、ここ3年ほど平成元年度の水準で推移している。

また、輸出生産事業所数は384所で、平成28年の412所から28所減少している。

長野県の輸出处荷額と輸出生産事業所数の推移



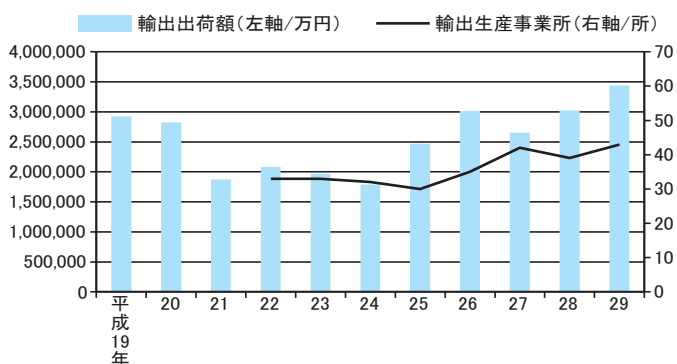
2. 飯伊地区の輸出处荷額と輸出生産事業所数の推移

同調査により、飯伊地区の輸出处荷額と輸出生産事業所数の推移を見ると、平成29年の輸出处荷額は、344億0,876万円で、前年に比べ13.8%増加している。

また、当地域の輸出生産事業所数は43所で、平成28年の39所から4所増加している。

同調査によれば、当地域では、県全体の趨勢と異なり、リーマンショック以後も輸出处荷額、輸出事業者数とも増加傾向にある。

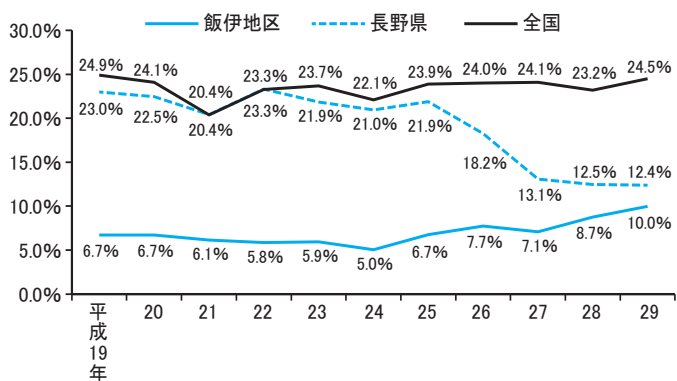
飯伊地区の輸出处荷額と輸出生産事業所数の推移



3. 製造品出荷額等に対する輸出处荷額の割合

右のグラフは、平成19年以降の製造品出荷額等に対する輸出处荷額の割合を、全国、長野県、飯伊地区で見たものだが、当地域では平成25年以降、水準はさほどではないものの上昇基調にあり、当地域の製造業事業者にとって輸出も重要な柱になりつつある様子が窺える。

製造品出荷額に対する輸出处荷額の割合の推移



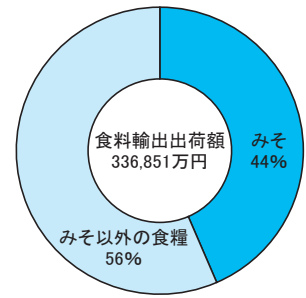
※ 製造品出荷額等は、すべて従業員4人以上の事業所

6. 長野県の「みそ」の輸出

平成29年の同調査によると、長野県では、電子、電気、情報を合わせた電気3種の輸出入出荷額が全体の41.4%を占め、次いで生産用機械器具が33.2%、輸送用機械器具が6.2%などとなっているが、食品など「他の業種」の輸出入出荷額も、平成元年に全体の輸出入出荷額の6.0%を占めるに過ぎなかったものが、平成29年には10.8%を占めるまでになっている。今回は長野県の生産額が全国の49.0%（経済産業省「工業統計」2018年）を占める「みそ」の輸出を見てみる。

平成29年の同調査によると、長野県の「みそ」の輸出入出荷額は146,577万円で、食料全体（飲料除く）の輸出入出荷額の44%を占める。

長野県の食糧の輸出入出荷額
（みそ・みそ以外の食糧・平成29年）

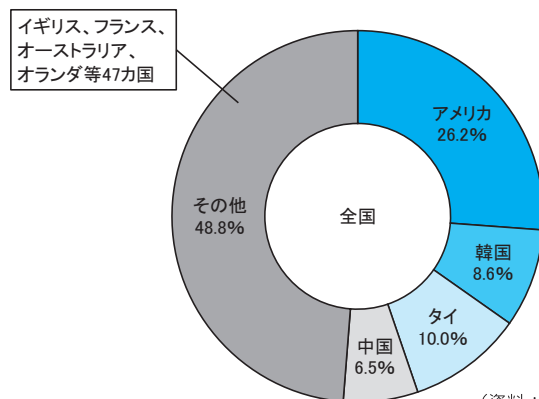
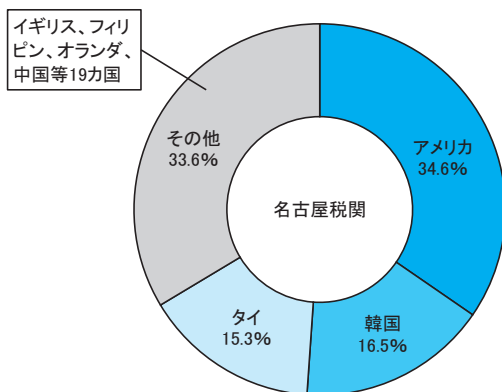


7. 貿易統計に見る「みそ」の輸出相手国

ご案内の通り、政府が平成19年に策定した「わが国農林水産物・食品の総合的な輸出戦略」において、「みそ」も加工食品輸出の重点個別品目となっている。こうした中、財務省の貿易統計によれば、「みそ」の輸出は、2013年に日本食がユネスコ無形文化遺産に登録されたことや、世界的な健康ブームもあり、増加傾向にある。また、同統計によれば、長野県や愛知県など「みそ」生産で名高い地域を管轄する名古屋税関が、輸出数量・輸出金額とも全国シェアトップとなっている。

下記グラフは、同統計によって「みそ」の輸出相手国を見たものだが、全国、名古屋税関管内ともにアメリカがトップとなっている。アメリカでは和食レストランや日系スーパーがチェーン展開をしていることの影響が大きいという。次いで、古くから在留邦人が多く「みそ」に馴染みのあるといわれる韓国、現地に加工工場があるタイなどが続く。2019年上半期において、名古屋税関管内では中国向け輸出が少ないが、これは東日本大震災に伴う諸外国、地域の輸出規制措置により、中国が長野県を含む9都県のすべての食品、飼料輸入を停止していることの影響が考えられるという。

「みそ」輸出相手国（2019年上半期）



（資料：名古屋税関）

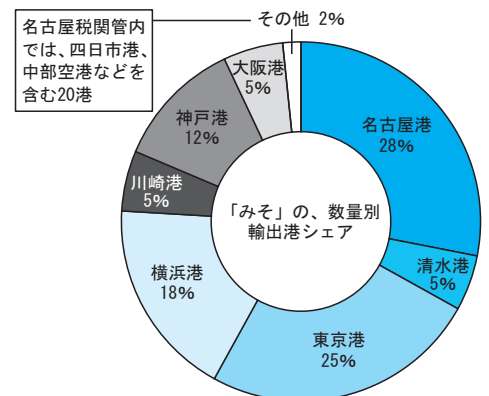
8. 「みそ」の輸出港

「みそ」は長期保存が可能のため、海港からコンテナ輸送により輸出されることが多いが、港別に2019年の輸出数量を見ると、名古屋港のシェアが高い。

2018年まで東京港の輸出数量が最も多かったものが、2019年に名古屋港の輸出数量が最も多くなったのだが、これには輸送コストの面から長野県の輸出が名古屋港に集約された等の事情があるという。

目下のところ三河港は「みそ」の輸出に利用されていないようだが、三遠南信自動車道の開通があったとき、それがどのように変化するか注目される。

（※ 図表出所は、特に表記のない限り長野県輸出生産実態調査結果報告書）



（資料：名古屋税関）

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 中村 達）